グリップヒーター　SP　　取扱説明書　　JMHAN530H01

必ずお読みください

このたびは本商品をお買い上げいただき、有難うございます。
正しく取り扱いいただき、末永くご愛用いただけますようにお願い申し上げます。
また本書は大切に保管してください。

安全上の注意事項

作業に始める前に本書を必ず熟読いただき、記載事項を厳守して作業を行ってください。

⚠警告　※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

・本商品は、パッケージまたはWEBページに記載された適合車種以外への使用はしないでください。
（最新の適合車種は弊社WEBページでご確認ください）
また、本商品はすべての車両への取り付けを保証しておりません。車種やお客様の使用状況によっては取り付けできない場合がありますのでご了承ください。

・12V車両専用です。6V車両や24V車両などには使用しないでください。。

・取り付けや、配線ミスにより発生いたしました破損・不具合等については保証の対象外となります。

・皮膚に本商品の両面テープを貼らないでください。

・本商品の取り付けには両面テープを使用しますが、両面テープでの完全な密着は不可能ですので、使用している間にはがれが生じる可能性があります。定期的なチェックを行い、走行中にはがれないようご注意ください。また、両面テープの性能を発揮させるため、装着後24時間は走行を控えてください。両面テープが浮いてしまいそうな箇所は、両面テープが密着するようにテープ等で押さえ、24時間後にそのテープを外してください。

・必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか、手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。

・本商品を取り付ける際には使用する純正部品および車両各部に欠損・損傷が見られた場合はその部品の再使用を避け、新しい部品に交換してください。そのまま使用していると重大な事故等につながる恐れがあります。

・取り付け後は走行前に各部に異常がないか毎回点検を行ってください。

・本商品の脱落がないように確実に取り付けてください。また作業中および使用中についたキズ等については保証の対象外になります。あらかじめご了承してください。

・取り付け後約100km走行しましたら各部を点検し、ネジ部等の増し締めを行ってください。その後、約500km毎に必ず点検して行ない、同様に増し締めを行ってください。

・走行中に異常が発生した場合は直ちに車両を安全な場所へ停車し、異常箇所を点検してください。正常に機能しない場合にはご使用をおやめください。

＜グリップ温度について＞

グリップヒーターは非常に高温になりますので、素手でのご使用はお止めください。レベル5や4などの高レベルの状態での常時使用は絶対に行わないでください。バッテリートラブル、やけどの恐れがありますので、高レベルは初期の急速暖め用のみのご使用としてください。
また、レベル1や2などの低いレベルでの使用時でも、長時間の連続使用や使用状況によっては、低温やけどをしてしまう可能性があります。そのため、長時間の連続使用時にはグリップヒーターを30分以上使用しないで一旦スイッチを切るなどをしてください。
また、グローブ装着時でも同様に低温やけどをする恐れがありますので、ご注意ください。

＜バッテリーについて＞

125CC以下の車両のような発電容量が低い車両への取り付けにはご注意ください。充電不足になってしまい、バッテリートラブルを引き起こすことがあります。また、長時間の暖機運転を行うとバッテリーを消費してしまい、商品が正常に動作しなかったり、バッテリー上がりを起こしてしまいます。発電容量の低い車両には、本商品では最大出力設定を行ない、車両に適した最大出力値に設定することで、グリップヒーターの取り付けによる消費電力が多くなっても、バッテリーへの負荷を減らすことができます。走行前や長期保管した車両にはこまめにバッテリーをチェックしていただき、メンテナンスを行ってください。

＜重要＞取り付ける前に必ずお読みください。

HIDキットや社外品のイグニッションコイルなど高電圧ノイズが出る商品と同時に装着しないでください。高電圧ノイズによりデジタル回路に悪影響を及ぼし、メーターの誤表示、最悪の場合には故障の原因になる恐れがあります。そのため、適合は電装系が**全てノーマル車のみ**となっておりますのでご注意ください。電装系がノーマルではない車両に取り付けした場合、本商品が故障しても保証の対象外となり、一切の保証はできませんので、ご注意ください。また、本商品は完全防水ではなく、防滴構造となっております。通常の雨程度であれば内部に水が浸入することはありませんが、水中に落としたりして水没させると内部に水が浸入してしまいますのでご注意ください。

●取り付ける前に

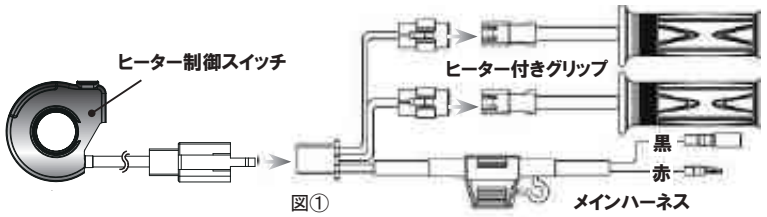
バッテリーのマイナス端子を取り外して作業してください。
作業が終わったら、マイナス端子は元に戻してください。

①配線の接続について（図①）

グリップヒーター側のギボシはφ3.5（ホンダ車サイズ）となっております。車体側のハーネスに適切な接続箇所がない場合には付属しているギボシセットを使って接続してください。
＜配線＞
・黒（アース線）・・・適切なアース線が見つからない場合には付属のアース端子を使って、フレームなどに直接アースしてください。**（※ SUZUKI車の中にはフレームアースが無い車両があります）**

・赤（DC12V電源線）・・キーONでDC12Vの電圧がかかる配線に接続してください。

※本商品を取り付けする前に、ハーネス、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題なく動作すれば、グリップとスイッチなどは一旦ハーネスから外しておきます。



図①

※付属しているエレクトロタップは配線を簡単に接続できて便利ですが、接続不良のトラブルが起き易い部品です。特に走行振動に弱いので、使用する場合には配線テープなどで揺れないようにしてください。できるだけエレクトロタップは使わないようにして、ギボシでの接続をお勧めします。



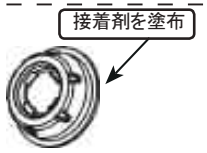
●NOTE●

ヒーター付きグリップですが、内径の小さい方が左側用で、大きい方が右側用（スロットル側）です。グリップとハンドルやスロットルパイプとのクリアランスが大きい場合には、付属のアルミシールをハンドルやスロットルパイプに貼ってクリアランスを狭くし、グリップが回らないようにしてから固定してください。または別売りの接着剤を使用して固定してください。

●注意●

車両についているスロットルパイプにグリップのズレ止め用突起（凸）がある場合には、すべて削り取ってください。グリップがスムーズに入るようにきれいにしてください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。

※バーエンドを使用しない（非貫通グリップとして使用）場合、接着剤（別売）を使って付属のエンドキャップをグリップに固定してください。

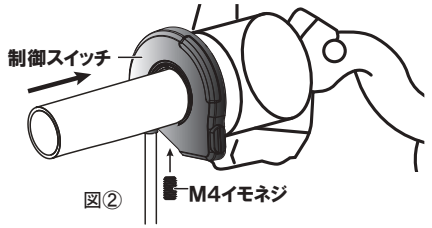


②ヒーター制御スイッチの固定について

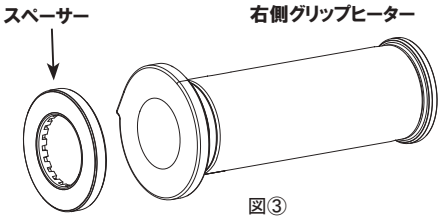
制御スイッチを左側グリップを取り付ける前に付属のM4イモネジで適切な位置に固定してください。（図②）
＜M4イモネジ＞規定トルク：1.2N・m

③グリップの取り付けについて

・右側（スロットル側）のグリップを取り付ける際には付属のスペーサーを入れてからグリップを取り付けてください。（図③）
・左側は制御スイッチを先に取り付けしてから、グリップを取り付けてください。
※スペーサーには左右がございます、グリップ内径と同じサイズの物を使いください。



図②



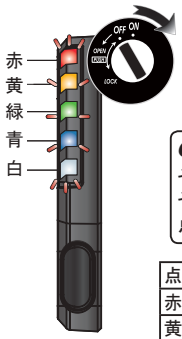
図③

2022.09.07

GRIP-HEATER SP

INSTRUCTIONS MANUAL 取扱説明書

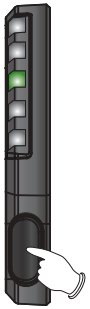
④ヒーター制御スイッチの動作手順について



イグニッションキーをONの位置に回すと、電圧検出モードとなり、LEDライトが白から赤まで点灯します。

●NOTE●
その後、検出した電圧に従って、それぞれのLEDが下記のように点灯します。

点滅するLEDの色	電圧
赤	13.1V以上
黄	12.6～13.0V
緑	12.1～12.5V
青	11.6～12.0V
白	11.5V以下

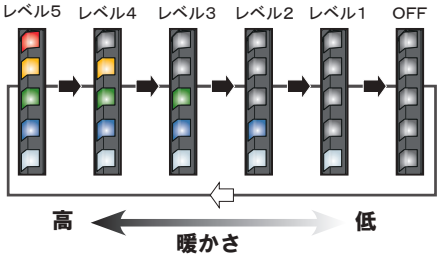


このとき、電圧表示をしたままでスタンバイモードになります。
左図では現在の電圧値が12.1～12.5Vを示しています。

スタンバイモードからボタンを一回押すとヒートモードになり、グリップの暖めが始まります。

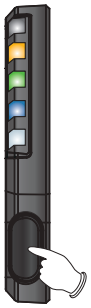
※前回キーオフにしたときの加熱レベルで暖めを開始します。

●NOTE●
レベルは1～5の5段階で、5が最大です。LEDが全部消えるとヒーターOFFです。



ボタンを1回押すと、レベルが1つ下がります。
レベル1（青のみ点灯）の次はOFFで、その次はレベル5になります。（上図参照）

・表示モードの切り替えについて



加熱レベルを表示中にボタンを3秒間を長押しすると、加熱しながら電圧表示をすることができます。

＜例＞レベル4で加熱中にボタンを長押しする。

ボタンを押したままで約3秒間押し続ける



左図のように、レベル4で加熱したまま、電圧表示をすることができます。

また、このときにボタンを短押しすると、加熱レベルを表示して加熱レベルを変えることができます。
5秒間無操作で電圧表示に戻ります。

●NOTE●
電圧表示モードはキーオフにすると加熱レベル表示モードに戻ります。

ボタンを押したままで約3秒間押し続ける

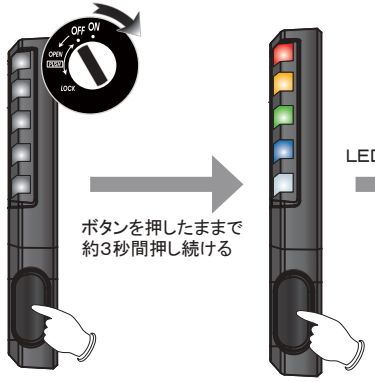


電圧表示モードでボタンを3秒間長押しすると、再び加熱レベル表示に戻ります。

⑤最大出力調整、下限電圧設定の手順について

1. ボタンを押しながら、イグニッションキーをオンにして、そのまま約3秒間押し続けるとLEDが全点灯します。
全点灯したら、ボタンを押すのを止めると、最大出力調整になります。

＜初期設定値＞
・最大出力・・・100%
・レギュレート機能・・・11.5V



ボタンを押したままで約3秒間押し続ける

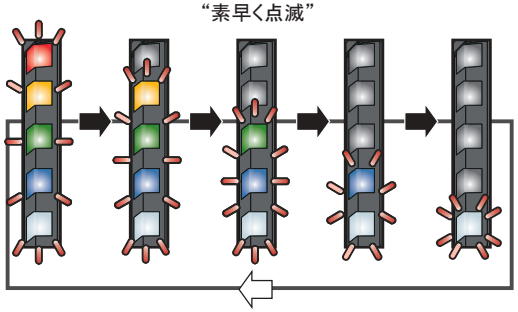
LEDが全点灯してから、指を離す

＜変更せずに通常モードに戻る＞

約10秒間無操作の場合

2. ＜最大出力調整＞
最大出力（加熱レベル5）のときの出力を下記の5段階から選ぶことができます。
・5つ点滅・・・100%
・4つ点滅・・・90%
・3つ点滅・・・80%
・2つ点滅・・・70%
・1つ点滅・・・60%

“素早く点滅”



最大出力を減らすことで、発電量の低い小排気量の車両で心配なバッテリー上がりを防ぐことができます。

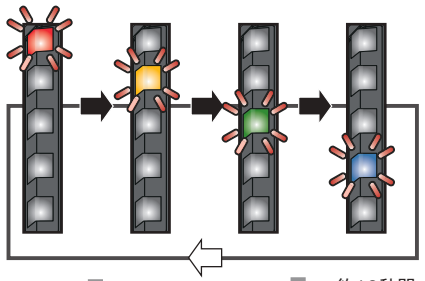
※車両によって、適切な設定が異なりますので、それぞれの車両に合わせた設定をご自身でお選びください。

また、設定した加熱レベル5以外の出力はそれぞれ均等割りになります。
＜例＞・レベル5__100%のとき
→レベル4__80%、レベル3__60%、レベル2__40%、レベル1__20%
・レベル5__60%のとき
→レベル4__48%、レベル3__36%、レベル2__24%、レベル1__12%

ボタンを約3秒間押し続ける

3. ＜下限電圧設定（レギュレート機能）＞
設定した電圧値以下にならないように、加熱レベルを自動的に調整します。
・“赤”のみ点滅・・・13.0V
・“黄”のみ点滅・・・12.5V
・“緑”のみ点滅・・・12.0V
・“青”のみ点滅・・・11.5V

※バッテリー上がり防止のため、12.0V以上で設定することをお勧めします。



ボタンを約3秒間押し続ける

＜設定変更完了、通常モードに戻る＞

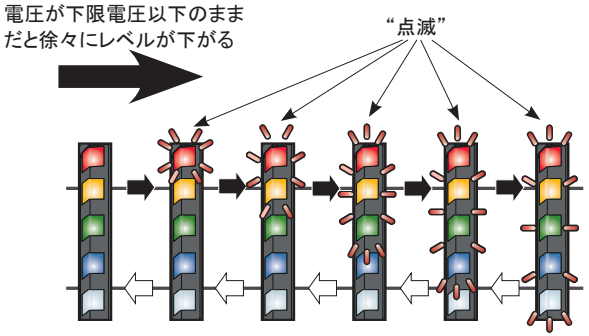
約10秒間無操作の場合

＜変更せずに通常モードに戻る＞

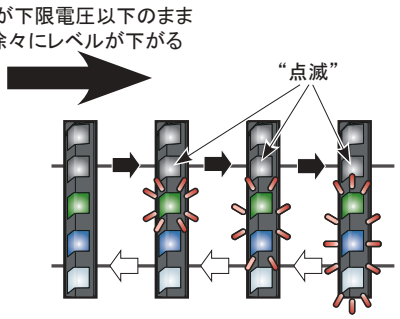
2019.07.08

⑥レギュレート機能について

車両のバッテリー電圧が設定した下限電圧以下に下がった時に自動的に加熱レベルを徐々に絞っていき、電圧が上昇するとまた元の加熱レベルで暖めます。



例えば、上図のようにレベル5で暖めている時にバッテリー電圧が本商品で設定した下限電圧以下になった場合、まずはレベル4になり（LED赤が点滅）、それでもバッテリー電圧が上がらない場合は、レベル3（赤、黄が点滅）、レベル2（赤、黄、緑が点滅）、レベル1（赤、黄、緑、青が点滅）というように徐々に加熱レベルを下げていきます。全点滅時には加熱オフになります。このとき、下がった加熱レベルのLEDは点滅するので、レギュレート機能が働いていることを視認できます。バッテリー電圧が上昇すれば徐々に加熱レベルは戻っていき、最終的には元のレベル5で暖めます。



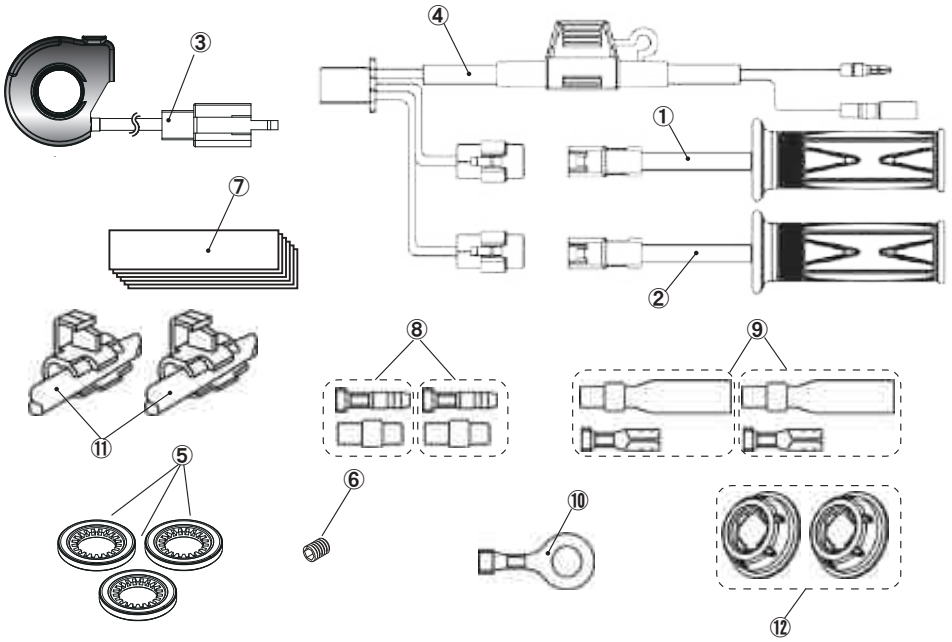
●NOTE●
レギュレート機能が働いているときには
図のようにLEDが点滅して、加熱レベルが
変化します。

レベル3で暖めているときに、バッテリー電圧が本商品で設定した下限電圧以下になった場合、まずはレベル2（LED緑が点滅）になり、それでもバッテリー電圧が上がらない場合は、レベル1（緑、青が点滅）というように徐々に加熱レベルを下げていき、最終的にはレベル0（全点滅）になります。
バッテリー電圧が上昇すれば元のレベル3で暖めます。

※グリップの長さについて

本商品は車両のグリップ長が120mm、125mmのものに対応しております。
本商品のグリップ長は120mm、125mmではなく、**115mm**となっておりますが、下記のように
＜120mmグリップ長の車両＞
・左側グリップ・・・グリップ長115mm＋制御スイッチ8mm＝123mm
・右側グリップ・・・グリップ長115mm＋スペーサー5mm＝120mm
＜125mmグリップ長の車両＞
・左側グリップ･･･グリップ長115mm＋制御スイッチ8mm（＋スペーサー5mm）＝123mm（128mm）
・右側グリップ・・・グリップ長115mm＋スペーサー5mm × 2＝125mm
で対応して頂く仕様となっております。また、スペーサーに関しては、上記はあくまでも参考なので、車両に合わせて適切な長さを入れてください。特にスロットル側はスロットル動作に支障のないようご注意してください。
※スペーサーには左右がございます、グリップ内径と同じサイズの物を使いください。

●構成部品について



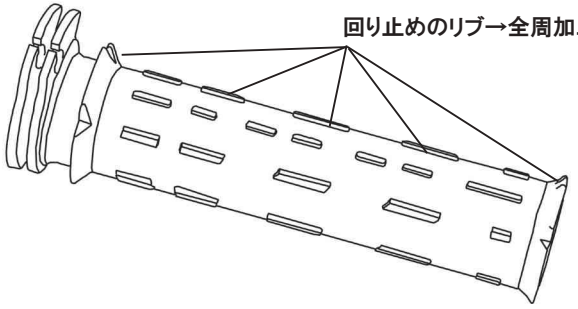
番号	部品番号	品名	個数	金額
①	08T50-HAN-E01	グリップヒーター115L側	1	¥4400 税込
②	08T50-HAN-E11	グリップヒーター115R側	1	¥4400 税込
③	E08T51-HAN-S1	SPヒーター制御スイッチ	1	¥5500 税込
④	08Z51-HAN-E01	メインハーネス	1	¥2200 税込
⑤	08T49-HAN-S2	グリップスペーサーSPセット	1	¥1500 税込
⑥	IBOLT04006FB-T	M4イモネジ	1	¥165 税込
⑦	08T50-EWA-E0H	アルミテープ	6	各 ¥220 税込
⑧	08T50-EWA-E0A	φ3.5オスギボシセット	2	各 ¥110 税込
⑨	08T50-EWA-E0B	φ3.5メスギボシセット	2	各 ¥110 税込
⑩	08T50-EWA-E0D	6mmアース端子	1	¥110 税込
⑪	08T50-EWA-E0E	エレクトロタップ	2	各 ¥110 税込
⑫	08T50-HAN-E21	グリップエンドキャップセット	1	¥1100 税込
⑬	JMHAN530H01	グリップヒーターSP	1	¥9999 税込

※価格、品番等々は予告無く変更する場合がありますのでご了承ください。

2022.09.07

グリップヒーター装着について注意事項
※必ずお読みください

＜スロットルパイプの加工について＞
純正スロットルパイプは下図のようにグリップ回り止めのリブが立っています。そのためグリップヒーターの装着には、リブ加工する必要があります。ただし、リブを全部削り取ってしまうと削りすぎになるので、スロットルパイプの加工した部分の外径がφ26になるように加工してください。



ご自身で加工される場合、リブを削った後に一旦、接着剤は使用せずにグリップヒーターを差し込んで確認してください。手で差し込んでちょっときついくらいで、外そうとすれば外せるくらいならば、グリップヒーターのケーブルの角度、位置を確認し、接着剤を使用して取り付けしてください。
差し込みに苦労するくらいきつい場合は加工不足なので、**無理に押し込まず**再度加工してください。

※無理やり押し込んだ場合、途中で奥まで入らなくなってしまったり、ハンマーなどで叩き込んだりすると、グリップヒーターの破損に繋がりますので、絶対におやめください。
この場合、保証の対象外になり一切の保証ができませんのでご注意ください。

＜取り付けについて＞
グリップヒーターは簡単に抜けてしまうと大変危険なので、ハンドルやスロットルパイプとのクリアランスを小さくしています。そのため、組み付け時にはきつくて組み付けにくい場合があります。

・推奨取り付け方法・
グリップを取り付ける前に、グリップヒーターの説明書を参考にして配線加工を行い、電源が入る状態にします。電源をONにして、グリップヒーター自体をじっくり暖めてから、取り付けると幾分取り付けやすくなります。（**目安は3分程度で、これ以上暖めるとグリップヒーターの変形や破損する恐れがありますのでお止め下さい。特にスロットル側は厚みが薄いので、手で触ってほんのり暖まっている程度でおやめください。**）
このとき内側には接着剤を塗布しますが、熱で接着剤の成分が霧状になってしまう恐れがありますので、吸わないようにマスク等してから取り付けしてください。
また、パイプに差し込む時に途中で止めてしまうと接着剤でくっ付いてしまいます。途中でグリップヒーターを止めないようにくるくる回しながら差し込むとくっ付かないで取り付けできます。

※注意※
グリップヒーターを暖めるとかなり熱くなりますので火傷しないように注意してください。
また、暖め過ぎると変形、破損しますのでご注意ください。

・接着剤での取り付けについて・
付属のアルミシールではなく接着剤でがっちり接着したい場合には、コニシ製ウルトラ多用途などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。その際にはすぐには接着されないので、使用した接着剤に記載されている硬化時間まで待ってから使用してください。

※注意してください※
グリップヒーターとハンドルバー（もしくはスロットルパイプ）のしめしろが、部品公差や加工具合によって変わることで接着力が弱くなる場合もありますので、走行前にはかならず接着されていることを確認してください。
もし、緩んでいる場合には、アルミシールを追加するなどして接着し直してからご使用してください。

＜Q&A＞
ご質問、お問い合わせを多くいただいている事例について、下記にてQ&A方式にして記載してありますので、お問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

Q：事前にグリップを暖めたのに、右側（スロットル側）のグリップだけ硬くて入れにくい。
A：スロットルパイプには、グリップの回り止めのリブが表面に立っている場合が多いです。この場合には、加工が不十分だと考えられますので、グリップが入る部分全てのスロットルパイプの外径がφ26になるように加工してください。

Q：左右のグリップで暖まりが違う。
A：左側はハンドルパイプ（金属）に直付けのため、熱がハンドルパイプに逃げやすいためです。右側はスロットルパイプ（樹脂）に取り付けなので、熱が逃げにくくなっています。そのため、どうしても左側の暖まりが悪く感じてしまいます。

Q：片側（もしくは両方）がまったく暖まらない。バッテリー電圧よりかなり異なった電圧を表示している。
A：グリップヒーターの配線が断線している可能性があります。テスターをお持ちなら、グリップのカプラー内に見える端子間抵抗値を測定して9～10Ω 程度が正常値なので、断線していると全く違う抵抗値になります。この場合、グリップの交換になります。
両方とも暖まらない場合、レギュレート機能が働いている可能性があります。レギュレート機能が働いているときには、LEDが点滅しているので、このとき暖まりは弱くなるもしくは全く加熱しなくなる可能性があります。設定した下限電圧値を下げるか、バッテリー電圧の低下が考えられますので、バッテリーの点検および交換をしてください。

Q：取り付けたグリップヒーターを外したい。
A：取り付けるときには緩まないように接着剤などを塗布しているため、外すことはできません。無理やり外そうとすると故障の原因になるのでお止めください。

Q：2台の車両に取り付けたが温まり方が違う。
A：車両のバッテリーの状態や容量、車両の発電量の違いによって温まり方が異なる可能性があります。また、グリップヒーターを接続している配線の場所によっても暖まり方が異なる可能性があります。

Q：テスターで測定したバッテリー電圧値と制御スイッチの表示電圧が違う。
A：グリップヒーターの電源取得のために接続している位置や車両によっては、車両の配線による電圧降下が大きいものがあり、制御スイッチ部の表示とバッテリーの電圧値が異なる場合があります。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。
※弊社の取扱説明書等、十分ご確認の上ご使用ください。
※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。
※本書やWEB上でのイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

注意
1. 本商品のパーツリストをもとに部品をご確認してから商品の取り付けをお願いします。
2. 取り付け・調整が終りましたら、各部分のボルト・ナットの締め忘れが無いようにご注意ください。
3. 取り外した純正部品（ボルト等）は元に戻す際に必要になりますので、必ず保管してください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
endurance-parts.com

2020.03.30

グリップヒーター取り付けについて

適合車種：ADV160（KF54）

このたびは、本商品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、本書およびグリップヒーター本体の取扱説明書を必ずお読みいただき、
いつも手元に置いて、正しい取扱方法により永くご愛用くださるようお願い申し上げます。

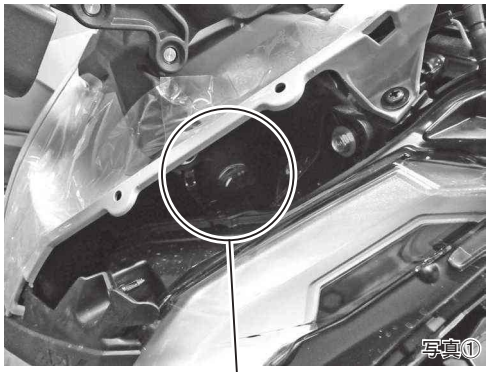
⚠警告　※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

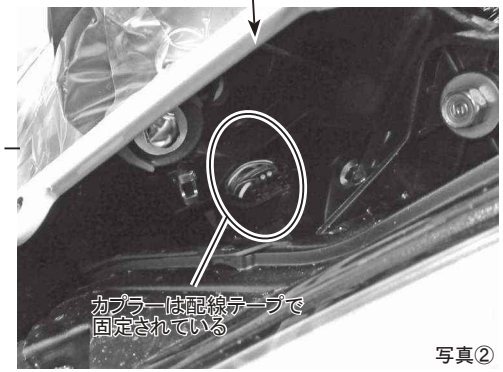
●構成部品●

- 専用スロットルパイプ・・・1個
- 専用ハーネス・・・1本
- ワッシャー（2種類）・・各1個（※SPのみ）
- スクリュー・・・1本（※SPのみ）
- 書類・・・1部

●接続する前に（重要）

- 本商品は**純正バーエンド装着車のみ**対応しております。バーエンドが純正と異なる場合には、別途バーエンド固定用のボルトが必要になる場合がありますので、その場合には量販店およびホームセンターなどで適切な長さのボルトをお買い求めください。
- セット内容に不備が無いかを確認してください。
- 本商品を接続する前に車両のサービスマニュアルを参考にして、写真①または写真②の状態になるようにカバー類を取り外しておきます。
  写真①、②を参考にしてグリップヒーター用ギボシの位置を確認しておきます。

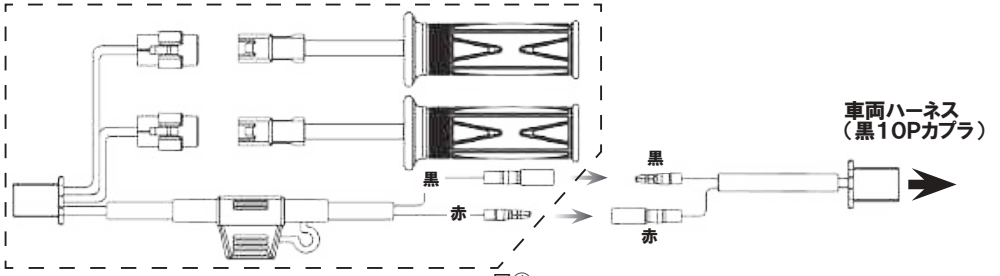

写真①



写真②

①配線の接続について（図①）

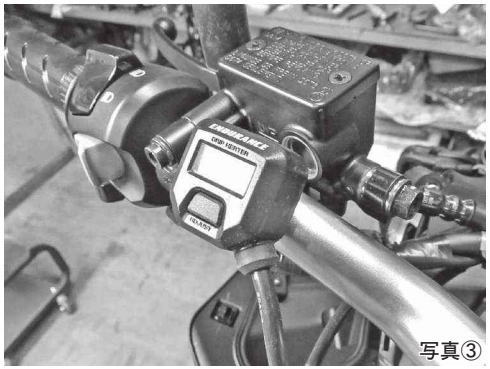
付属している専用ハーネスを車両のグリップヒーター用10Pカプラ（黒）に接続します。
それぞれの配線を接続したら、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。
問題無く動作すれば、グリップとスイッチは一旦ハーネスから外しておきます。



図①

②純正グリップの取り外し

左右それぞれの純正グリップを取り外します。
純正グリップが付いていたところに付着しているボンドをパーツクリーナーなどできれいに取り除きます。


写真③

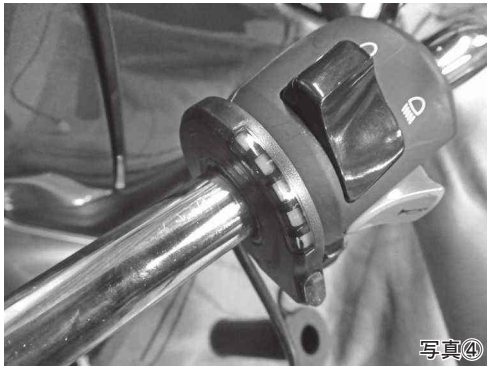
③スイッチ部の取り付け

＜HGの場合＞

付属のステーをハンドルパイプに固定します。（写真③）
→ハンドルの形状上、マスターシリンダホルダーの横以外での取り付けは難しくなっておりますので、ご注意ください。また、操作の邪魔にならない位置にクランプしてください。その後、両面テープで制御スイッチを固定します。

＜SPの場合＞

グリップヒーターを取り付ける前に、リングタイプスイッチをハンドルパイプの左側グリップ部に差し込んで固定します。（写真④）
→このとき、車両の操作の邪魔にならない位置に固定してください。


写真④

④左右グリップの取り付け（参考例）

＜SPの場合＞

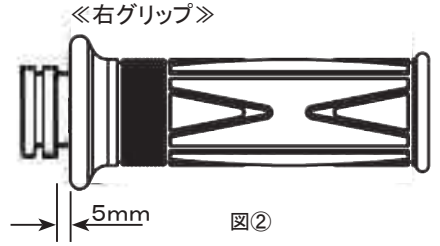
グリップヒーター本体の説明書を参考に、必要に応じてスペーサーを先に入れてからグリップを取り付けしてください。（スペーサーが必要ない場合もあります）

＜以下、HG、SP共通＞

下記の図①を参考にして、本取り付けキットを使用してグリップヒーターを接続した後、スイッチをONにしてグリップが手で触って暖かいくらいまで仮組みで暖めておくと差し込みやすくなります。
また、右グリップはサービスマニュアルを参考に純正を取り外して付属のスロットルパイプに交換して、図②のようにスロットルパイプとグリップ間が5MMくらいになるようにしてください。

※このとき、スロットル操作に問題無いか確認して、スロットル全開状態から、手を離して確実に全閉に戻ることを確認してください。

⚠注意　左右のグリップ共にグリップから出ている配線の位置を確認してから取り付けしてください。また、右側はスロットルを回した時に配線には絶対負荷がかからないようにしてください。グリップから配線が出ている部分は弱く、断線して破損してしまう恐れがあります。



図②

2023.02.10

●注意●

グリップヒーターを取り付ける際に、グリップヒーターのエンドをハンマーで叩いたり、グリップを強くねじったりしないでください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。また、仮組みでグリップを暖める際に**1分以上**は暖めないでください。（**特に右側**）。内部が変形してしまい、熱線が出てきてしまう恐れがあります。

※右側グリップはスロットルを全開、全閉にしたときに、グリップから出ているケーブルに負荷がかからないように取り付けてください。

※必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。

⑤左側バーエンドの取り付け（写真⑤）
※SPのみ（HGはそのまま取り付けする）

左右共にグリップヒーターの取り付けが終わったら、左側バーエンドの取り付けをします。
（右側は純正と同様に取り付けします。）
純正グリップ状態に対して、約8mm長いので純正バーエンドを固定する際に付属のスペーサー（5mm＋3mm）を左側のみに1個づつ入れてからバーエンドを付属のボルトを使用して固定します。

※純正ボルトのままだとネジ山がほとんどかからないので絶対に使用しないでください。



写真⑤

⑥配線のまとめ

それぞれの取り付けが終わったら、車両のハーネスに沿わせながら、左右グリップ、スイッチの配線を通してグリップヒーターハーネスのカプラーに接続します。
配線の長さが余ってしまっている部分はタイラップなどでうまくまとめて固定します。

→ハンドルを左右に動かして、ハーネスに力がかかっていないか、ハンドル操作の邪魔になっていないか確認します。



写真⑥

※このとき、ハーネスとスイッチの接続カプラー部は配線テープを巻き付けて防水処理を施してください。
（写真⑦）



写真⑦

⑦取り付け完了

取り外したカウルなども元に戻す前に、イグニッションキーをONにして再度、グリップヒーターの動作確認をします。
問題なく温まったら、カウルを元に戻して取り付け完了です。

・グリップヒーター（スイッチ）の使い方はグリップヒーターの取扱説明書を参照してください。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。
※弊社の取扱説明書等、十分ご確認の上ご使用ください。
※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。
※本書やWEB上でのイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
endurance-parts.com

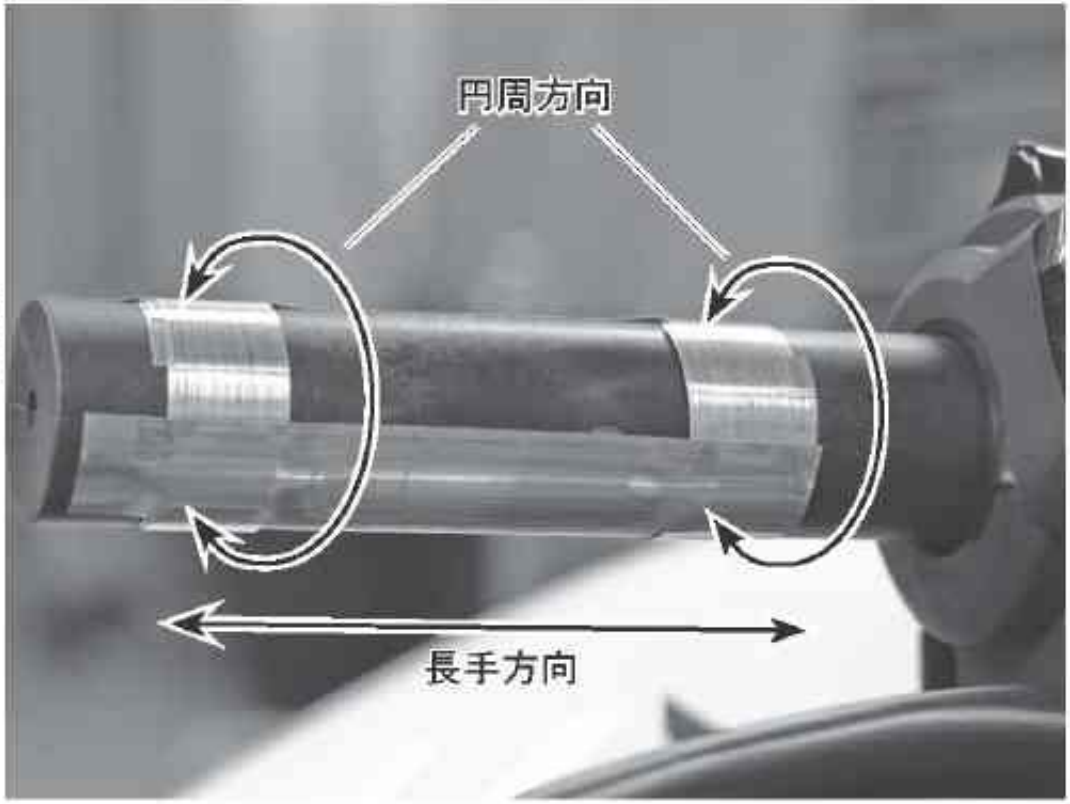
2023.02.10

グリップヒーターについて注意事項

※必ずお読み下さい

<スロットルパイプとのクリアランスについて>

スロットルパイプとのクリアランスが大きい場合があります。
このとき、写真のように円周方向に2カ所、付属のアルミテープを貼り付けて、残りのアルミテープで長手方向に貼り付けるようにして調整してください。
また、必要に応じて別売りの接着剤を使用してグリップの取り付けを行ってください。



・接着剤について・

接着剤は**コニシ製ウルトラ多用途**などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。
その際にはすぐには接着されないので、使用した接着剤に記載されている硬化時間まで待ってから使用してください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
www.endurance-parts.com/

2025.11.24